

# 府中かんきょう市民の会

NPO法人 府中かんきょう市民の会々報

2016年 春号 4月13日発行 通巻60号

発行人：竹内 章（府中市分梅町）

TEL 042-364-3428

第16回  
バス見学会

## 「富士山科学研究所」と「ふじさんミュージアム」を訪ねて

日 時 2015年11月13日(金)  
 集 合 大国魂神社鳥居前 午前8:30集合 出発9:00  
 参加人員 42名(市民の会会員とその家族21名)  
 行 き 先 中央自動車道を経て、山梨県富士吉田市へ  
 1 山梨県「富士山科学研究所(MFRI)」  
 2 「ふじさんミュージアム」と附属施設の古民家  
 3 駅の道 富士吉田  
 天気模様 雨降らず、風ほどよく、まずまずの行楽日和

当初示した「案」では、富士スバルラインを通り富士山5合目を目指す旅程もあったが、バス見学会の実施が11月中旬のため、積雪で行けないことがわかり、断念した経緯があった。その五合目への実踏のさい、南アルプスの山並み、富士山の頂きなどの眺望はすばらしかった。

残念だが五合目へ行けなかったのも、その代りの「ふじさんミュージアム」である。しかし、結果オーライである。ミュージアム自体もよかったが、そこに通じる道路の両脇の紅葉、色鮮やかな紅葉のトンネルが皆さんの感動的となった。



色鮮やかな紅葉のトンネル

まず、「富士山科学研究所」を訪ねた。

一昨年、世界文化遺産として登録されたことを契機に、富士山環境科学研究所から富士山科学研究所に改められ、富士山を重点的に研究する「自然環境」、「火山防災」、「環境共生」の3機能と山梨県民や来訪者に対する情報を提供交流する機能を備えた研究所を目指すとして、職員数49名(研究部32名)を抱えている。早速、下記講演を聴く。

演者／火山防災研究部 吉本允宏氏 約50分

演題／富士山の火山災害とその軽減を考える

1. 富士山とは／位置、地震
2. 火山防災における富士山の課題／宝永噴火。1707年以來噴火なし
3. 富士山の将来の噴火はどうなる？／大地震と富士山噴火は関係していない？ 火山灰による災害、地震活動が(2011年に)多い。

4. いかに火山災害を減らすか？／風邪をひくと同様噴火日を予知できない。しかし、マグマの動きで予知できる。災害軽減における教育の重要性を強調された。



アカマツ林での職員の説明

次いで、研究所の周りは火山灰土壌に植生したスマートなアカマツ林群となっている。そのなかにある自然観察路(木道)を歩き、動・植物の生態、溶岩、樹形などについて、職員が説明・案内してくれた。このアカマツ林も後100年もすれば、樹種が変わるとの話が印象に残った。

富士山科学研究所は、日本のシンボル・富士山に様々な角度から光をあて、世界共有の財産として“守り”、“活かす”ための方策を科学的に追求しているという使命感にあふれた態度が共感を呼んだ。

今度は、「ふじさんミュージアム」に向かった。まず、その近くの鮮やかな紅葉を眺められる古民家で、遠足気分で昼食をとった。紅葉を眺めながらの昼食は格別だった。



ドーム型の「ふじさんミュージアム」を背に記念撮影 富士吉田の道の駅にて

「ふじさんミュージアム」は拝観料をとるだけあってガイドが付き、土産物店も付属し、電子機器の活用、音声ガイドなどで、「富士山の歴史」、「信仰の対象」、「魅力」、「すばらしさ」を知らしめる。今や外国人、特に中国の人には人気スポットとなっている。

この日は、富士の峰は姿を現わさなかったが、本バス見学会は皆さんに気に入っていただけたらうか。(竹田 勇)

# 「水都府中研究会・歩く会」に参加して

「水都府中？」聞きなれないので一瞬とまどうかもしれない。2014年6月29日、第4回わき水まつり講演会の講師に神谷 博氏(みずみち研究会代表・法政大学エコデザイン研究所・研究員)をお願いしたことが発端。

氏は長年、市民と共に野川流域の湧水・地下水調査を通じて、都市化の湧水保全の実現に尽力したことで知られている。演題は「水の都 府中の今と昔」～武蔵国府はなぜここに立地したのか？ 水の豊かさは今も府中の拠り所～と切り口の新鮮さが反響を呼び講演は大いに盛りあがった。

国府が立地するには相応の理由があり、水の豊かさがその一つで、律令時代に遡ると府中は「水の都」としての姿が浮かび上がるという。国府の水の骨格が今日に



第4回わき水まつり講演会での「神谷 博」講師

受け継がれていることを再確認し、次代の「水都府中」を描けるよう源流を辿ろうと、いわば課題提起の講演会となった。こうした経緯から「水都府中研究会」を提案、その手始めに“歩く会”が計画された。

2014年11月の第1回から2015年12月まで7回と番外編「暗闇祭の音を聞く会」や、昨年10月には「振り返りと今後に向けて」のミニシンポジウムを開催、中間まとめを行った。

散策エリアは府中市と周辺市域で地形、景観、集落発展、川・用水路、街道交通や史跡をポイントに巡った。7回の見学地は以下。①浅間山から水都府中の景観を歩く ②城山(稲城市)～ ③一宮小野神社(多摩市)～ ④下流・調布方面～ ⑤上流・熊野神社古墳と谷保～ ⑥国府津品川と荏原神社 ⑦調布と品川道(品川道その2)



貝塚発掘場所は東海道線のすぐ脇

## ここでは、⑥国府津品川と荏原神社(昨9/24)を報告

大国魂神社くらやみ祭の潮盛神事はよく知られている。源頼義らが先勝祈願に品川沖の海水を汲み、禊(ミギ)用の水を運んだのが品川道。国府府中と武蔵国の海の玄関口である荏原郡品川との深い関係を示す由緒ある行事で、平安時代から連綿と今日まで続いている。



遺跡公園内の本物の貝塚展示

当日は最初に日本考古学発祥の地で知られる大森貝塚遺跡を見学した。遺跡所在地をめぐり品川区説と大田区説の論争があったが、品川説を裏付けることになった1984年発掘調査を担当された小田静夫氏(当時都職員)の飛び入り参加で、実感のこもる解説には大感激。品川歴史館では折しも開館30周年記念展「東海道品川宿」が開かれており、東海道第一の宿場の歴史など奥深さを感じた。

品川湊の中心と言われる目黒川の河口では海水汲みの柄杓を保管している荏原神社に参拝、今はビル群に囲まれているが、品川湊と思しき海岸を散策した。品川道は潮盛神事だけでなく、近世には「いかだ道」でもあったし、府中市域には品川街道と呼ばれる一角(清水が丘)に常久一里塚(市史跡)がある。実際は旧甲州街道の一里塚であり、時代と共に呼び名や役割が変遷していることがわかる。



しながわ宿場まつり おいらん道中

## 「歩くこと」で見えてくるものがある！

見学会はとかく講師役がいて、参加者は聞き役となりがちであるが、歩く会ではリードする講師役は設けず、各自関心のあるテーマのレジメを持ち寄り、歩きながら開陳・交流するスタイルだった。もちろん「百聞は一見に…」の通り、現地では発見や新たに疑問が沸くことがしばしばで、耳学問では得られない収穫があった。

なかには地図の専門家もおられ毎回、年代別の地形マップを用意していただき、改めて地図の威力を再認識することとなった。品川駅周辺を歩くこともなかったが、実際に歩いてみて、自分なりの発見や感動で、より興味を深めることができた。今更ながらであるが歩くことの効用に気づいた。

品川駅への道すがら、荏原神社近くの旧東海道で、思いがけず「しながわ宿場まつり」が実施中で身動きできないほどの人出であった。品川区と言えば、高層ビル群に囲まれたイメージが強いが、往時の江戸風俗行列が練り歩くなど、その賑わいに触れて、ほっこりする気分を満喫できた一日となった。  
(進藤 礼治郎)

8年の  
振り返り

# 「畑の学校」終了

## 「畑の学校」開設！

都市における農業・農地の重要性は、食糧自給、地球環境問題の視点からも広く市民に認識されている。しかし、現実には農業者の高齢化、担い手不足、収益性の低下などで、農地・農業が減少している。そこで、市民参加型農業(畝作り、観光農園、援農ボランティア、市民農園、体験農園等)が奨励されている。

府中かんきょう市民の会でも、援農ボランティアを実施してきたが、自分たちの知恵と仕方て色々な野菜を作りたいと農地を探していた所、援農ボランティア先の農園主が受け入れてくれた。早速、入園利用方式を採用し、生徒募集した。

農園主の指導を受け、皆で意見を出し合い耕作体験・学習し、農業愛好者を増やすのが目的。運営方針は以下。

- 1) 共同耕作で、野菜の種まきから収穫までを体験する。
- 2) 循環型農業を目指す。エコにやさしい農業をする。
- 3) 収穫物はみんなで分ける。
- 4) 必要な道具は当面持ち寄りとする。



開校式 平成20年4月13日

平成20年4月13日(日)に開校式を行った(写真④)。あいにくの雨天だったが20名も集まり、輝いた眼をした面々が忘れられない。現実の栽培は、試行錯誤の連続で、協働作業の具体化、栽培方法、収穫物の分け前等の会則・細則をつくり、楽しく、好きなようにできることを心がけた。

## 悪戦苦闘の野菜栽培

種子から育てるのが原則。苗は購入せず自宅で苗づくりも行った。しかし、実際は苦戦の連続で、栽培は区画の責任者に任せ、各区画の栽培歴を記録し、次年度の活動報告書を作成した。各人が育てた野菜類は以下である。

- ①豆 類 ○エンドウ豆 ○インゲン豆 ○枝豆 ソラマメ等
- ②根菜類 ○ジャガイモ ○里芋 カブ ○ダイコン  
○ニンジン ゴボウ ○サツマイモ等
- ③葉菜類 ○タマネギ ○ネギ ワケギ ○シュンギク  
○キャベツ ○水菜 ○ホウレンソウ ○小松菜  
ベンリナ ブロッコリー ○ハクサイ ○レタス等
- ④果菜類 ○トマト ○キュウリ ○ナス ○ピーマン  
○オクラ ○カボチャ ○トウモロコシ ニガウリ  
○シシトウ等
- ⑤果物類 ○スイカ ○イチゴ等

市場に出ていない種類のものを作ってみて、仲間の評価を求めるのも本学校のよさでもある。



皇帝ダリア

注)

- ・左下の○印は毎年栽培、
- ・作り難かった作物 ホウレンソウ トマト ニンジン
- ・作り易かった作物 皇帝ダリア(写真④) 里芋 ネギ 葉菜類
- ・珍しい作物 a 皇帝ダリア/倒れないようにするだけで大木に育ち、ピンクの花をつける。同一株の親戚が多くできた。
- b 八升豆/アレロパシー(他感作用、遠隔作用ともいわれる)を生産し、周りにどのような影響を示すのか。
- c ツタンカーメンのえんどう豆/エジプトの墓地から発掘された化石種子。
- d パンダ豆/パンダのような模様が殻にある。長野では土産物として売られている。
- e その他としてシロナス、三浦大根、長豆、ソバ等

## 思い出のイベント

- ☆スイカ祭り/盛夏のなか、自分たちでつくったスイカを並べ、現地で賞味。これは、人気があった。
- ☆イチゴ狩り/イチゴ栽培が上手な人がいて、毎年成熟したイチゴの実をつまみ食した(写真⑤)。
- ☆生産物を材料に“男の料理教室”を開催した。
- ☆かんきょう市民の会の10周年記念で、ソバ打ち用のそばを育てたことは忘れられない。



イチゴをつまみ食い

## “畑の学校”さようなら 農園主の事情により昨年12月20日終了

農園主だけでなく、学園生、外部の人の助けもあり、余るほどの生産物を得、体験・学習させてもらったことに感謝して、厚くお礼申し上げる。(畑の学校 元校長 竹田 勇)

プログラム

2016「田んぼの学校」生徒募集

田んぼの学校も府中市民に定着し11回目を迎えました。15年続いたレンゲまつりが昨年で終了したので田んぼの学校は田んぼに親しむ唯一の行事になります。

田んぼはお米を作るだけでなく、トンボ、メダカやカエルなどのいのちを育て、暑さをやわらげたり、季節ごとに美しい風景をつくり、心を和ませてくれます。このほかにもたくさんのはたらきがあります。米づくりを体験しながら、田んぼのふしぎやすばらしさを学びませんか。

田んぼの学校は農作業を通して身近な自然に触れる、親子で一緒に体験できる、自宅ではバケツ稲の生長を親子で観察し、何かを感じ、気づくことを特色としています。

東京農工大生、府中東高生物部の若いスタッフの応援を得て、運営したいと思っておりますので皆さんの積極的な参加よろしくお祈りします。(柿本 正夫)

Table with 4 columns: 開校日, 行事・農作業体験, 観察・調べること. Rows include dates from 5/29 to 11/6 and activities like '開校式・田植・バケツ稲', 'イネの生育観察・草とり', 'イネ刈り・ハサかけ', '脱こく・モミすり', '収かく祭・修了式'.

△募集数: 40名(こえる時は抽せん)
△参加費: 1,000円
△対象: 小学生~大人(1~3年生は保護者同伴)
△場所: 東京農工大学 本町農場(本町3の7・分倍河原駅5分)
△日数: 全5日 毎回9:00~12:00(収穫祭は9:00~14:00)
※詳細は、広報「ふちゅう」の4月21日号でお知らせします。

子どもたちと共に楽しんだ「第3回 ふれあいこどもまつり」

日時 3月13日(日) 10:00~14:00
場所 ルミエール府中
主催☆構成団体・参加・体験・感動! ふれあいこどもまつり実行委員会
☆企画運営 ふれあいこどもまつり府中地域実行委員会
共催 府中子ども劇場

「ふれあいこどもまつり」の目的は?

ふれあいこどもまつりは、①子どもたちが表現や創造の素晴らしさを実感し、豊かな心と感性を育む事を目指します。②身近な施設でのアウトリーチ活動、公共文化施設での舞台鑑賞やワークショップ等を実施し、子どもたちが様々なジャンルの芸術に触れる機会を提供します。③子どもたちの舞台体験を共に考える大人たちのネットワークを広げていきます。この3項目を目的として行われています。

府中かんきょう市民の会は、「田んぼ学校」や「西府崖線保全活動」などで「自然環境保全の大切さ」を体験する機会を提供しています。それらの活動を多くの方々には知らせたいと、このお祭りに参加しています。

盛りだくさんのイベント!

3つの公演(①おもしろミュージックランド②ぞうのエルマー③リンゴマ)と、2つのワークショップ(①和紙ぎつねを作ろう②ウレタン怪獣を作って遊ぼう)。

市民企画としてはわくわく広場(投扇興、動物の折り紙、葉っぱプリント、蝶飛行機、けん玉、ジャグリング)、とんとん広場(クラフト帽子)、絵本の広場(読み聞かせ)と、昨年以上に内容も豊富になり、どこのコーナーも子どもたちが群がっていました。12:15からのロビーパフォーマンス(公演グループや市民企画の紹介)や、スタ



竹コプターをつけたドラえもん

ンプラリーもあり、とにかく盛りだくさんの内容でした。

府中かんきょう市民の会は...

「動物折り紙」のコーナーでは、大きさの異なる12色の丸い折り紙で、自分の好きなものを作ります。「竹コプターを付けたドラえもん」「アンパンマン」「シバニヤン」「くまモン」「ミッキーマウス」などなど何でもありです。親子で、兄弟でワイワイいながら作っていました。

「蝶飛行機」はロビーで行いました。ストローの先に紙製のモンシロチョウを付けてヒラヒラさせると、野原では雄の蝶がよってくるようですが、ここでは子どもたちが「何やってるの」とよってきました。そこで担当の高家さんは「こうやっている」と蝶がくるんだよ」と説明していました。

「発砲スチロールの飛行機」は、蝶型の薄い発砲スチロールの前中央にクリップが留めてあり、高い所からソットはなすとクルクルとゆっくり回転して飛びます。飛ぶ種の原理を応用したものだそうですが、何か不思議な感じがします。大人が夢中になって飛ばしていました。



市民の会のコーナー

アウトリーチ(事前宣伝)の目的は?

今回も開催日を迎える前に、市内の幼稚園や保育園、美術館で9回のアウトリーチと1回の招待公演がありました。アウトリーチでは、参加するグループが短時間の公演を行い、子どもたちも一緒に歌ったり踊ったりします。ある時の実行委員会で、公演するグループの方から「アウトリーチは集客に効果がありますか」と質問がありました。

「アウトリーチは、様々な理由で公演にこられない子どもたちに、生の演技を見せる為に行うのです」。その予期せぬ答えに私は頭がガンと殴られたような衝撃を受けました。そして、益々「ふれあいこどもまつり」が好きになりました。来年は3月5日(日)に開催されます。楽しいこと、請け合い。是非、お出で下さい。(梅沢みどり)

# 東京都における 空き家の現状と取り組み

近年、防火・防犯・ゴミの不法投棄・衛生の悪化・景観などの観点から空き家問題が社会問題となり、同時に環境問題ともなっている。この件について考えてみたい。(編集部)

- 利活用の取組みは以下のとおり。
- 世田谷区空き家等地域貢献活用相談窓口 空き家のマッチング
- 世田谷区らしい空き家等の地域貢献活用モデル 空き家活用事例のモデル選定
- 品川区空き家活用モデル事業(平成27年度～)
- 文京区空き家等対策事業(平成26年12月～) 空き家等跡地の有効活用
- 大田区空き家活用相談窓口(平成26年12月～) 空き家のマッチング

なお、町田市は昨年(2015年)の12月議会で、「空家等の発生の予防、適切な管理及び活用の促進に関する条例」を策定している。ただしこの条例は、国の空家対策推進特措法の施行条例の性格が強く、私は評価し難いと思っている。

## 都内の空き家の状況

東京都住宅政策審議 第4回企画部会提出資料「空き家の現状と取組」から

◇平成25年において住宅ストック数(約735万戸)は、総世帯数(約650万世帯)に対し、1.13倍となっている。平成25年時点での空き家は約82万戸であり、空き家率は平成10年からほぼ横ばいで、平成25年では11.1%となっている。

◇内訳をみると、空き家のうち、約60万戸は賃貸用であり、平成20年と比較して、10万戸以上増加している。一方で、長期不在・取り壊し予定の空き家は平成20年と比較して減少しているものの、約15万戸存在している。

◇平成25年の東京都の空き家総数82万戸のうち、活用可能と想定される「腐朽・破損なし」の空き家数は65.6万戸である。活用可能な空き家は、賃貸用の住宅が多い。

◇「腐朽・破損あり」の空き家数は約16万戸であり、空き家総戸数の約2割を占める。このうち、長期不在等のものは約4万戸である。

◇平成25年の空き家率は全国では13.5%と増えているが、都では11.1%と増減なし。都内の「賃貸用」の空き家は、区部、市町村部ともに増加。一方で、「長期不在、取壊し予定」の空き家数は、区部、市町村部ともに約20%の減少。

区市町村名	実態調査	条例	利活用	除却支援
千代田区				
中央区				
港区				
新宿区		○		
文京区	○			○
台東区	○	○	○	○
墨田区	○	○		
江東区				
品川区	○	○	○	
目黒区			○	
大田区	○	○		
世田谷区			○	
渋谷区	○	○		
中野区				
杉並区	○			
豊島区	○	○		○
北区	○			○
荒川区	○			○
板橋区	○			
練馬区	○			
足立区	○	○		○
葛飾区	○			
江戸川区				

区部計	14	8	4	8
-----	----	---	---	---

区市町村名	実態調査	条例	利活用	除却支援
八王子市		○		
立川市				
武蔵野市				○
三鷹市	○			
青梅市	○			
府中市	○			
昭島市				
調布市	○			
町田市				
小金井市	○			
小平市	○	○		
日野市	○			
東村山市	○			
国分寺市	○	○		
国立市				
福生市	○			○
狛江市				
東大和市				
清瀬市	○			
東久留米市				
武蔵村山市				
多摩市				
稲城市				
羽村市	○			
あきる野市	○			
西東京市				

市部計	13	3	0	2
-----	----	---	---	---

区市町村名	実態調査	条例	利活用	除却支援
瑞穂町				
日の出町	○			
檜原村	○		○	
奥多摩町	○			
大島町				
利島村				
新島村	○			
神津島村				
三宅村				
御蔵島村				
八丈町	○			
青ヶ島村				
小笠原村				

資料2

町村部計	5	0	1	0
------	---	---	---	---

区市町村合計	32	11	5	8
--------	----	----	---	---

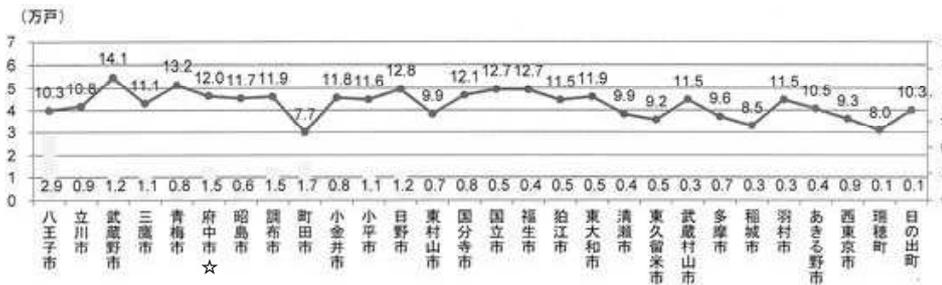
## 市町村別空き家の状況

◇空き家率は、豊島区(15.8%)が最も高く、大田区(14.8%)、武蔵野市(14.1%)と続いている

◇武蔵野市のほか、市町(奥多摩町は掲載されず)の状況は下記資料1のとおりである。

◇府中の状況は、下記によると空き家率12.0%、空き家数約15,000戸である。

また、23区と多摩地域の条例策定や利活用、除却支援等の状況は上記資料2のとおりである。府中市は実態を行ったことになっているが、市民に公表されているだろうか。



資料1

(資料)平成25年住宅・土地統計調査/総務省

## 府中市の当面の課題

私が府中市における当面の課題だと考えているのは、木造賃貸アパートである。先述のように、東京都の空き家は賃貸用が多い。私が多磨霊園駅近くの清水が丘地区を歩いてみて感じたのは、老朽化した木造賃貸アパートの多さである。

府中市に限らず、木造賃貸アパートの入居者は低所得・低資産高齢者が多い。また生活保護受給者も多い。府中市の木造アパートにお住まいの人たちも、高齢低所得者であり、生活保護受給者であると想像される。市は、このよう

な状況をつぶさに把握しているとは考えられない。

グループホームやシェアハウスなどの手段を講じないと、アパートが壊されたり、入院したりすると、その後の入居先がなくなることが危惧される。早急に対策を講じないと時間がないのである。(伊藤 久雄)

# 環境への 負荷を減らす

# ECO products 15 レポート

昨年秋の「COP21」では、気候変動の影響による気温上昇を2度以内に抑えるという目標で、'20年以降の温室効果ガス排出量削減に関する新たな枠組みが合意された中で、日本経済新聞等の主催により、702社・団体が出展し、我が国最大の「エコプロダクツ15」が昨年12月10日～12日に東京ビッグサイトで開催された。

## 1.二酸化炭素の排出削減

### 1-1自動車

・タイヤの「転がり抵抗性能」を高めて自動車の低燃費性能改善(住友ゴム工業)「新シリカ用変性ポリマー」等を採用することで低燃費性を更に向上させ、転がり抵抗性能を「A」から「AA」に高めた。(ラベリング制度:タイヤの転がり抵抗性能とウェットグリップ性能を組み合わせた等級制度)

・炭素繊維強化プラスチック(CFRP)代替による車体重量の半減(東レ)

CFRPを採用することにより、ライフサイクル(\*1)全体では、炭素繊維使用がCO<sub>2</sub>削減に大きく寄与する。  
《炭素繊維の生産性が10倍》

東大や産技総研及び東レ、帝人等々が参加して現行方式の生産性の足かせとなっている耐炎化(\*2)工程を不要とするとともに、マイクロ波を用いた高効率の炭素化技術、及びプラズマを用いた表面処理技術を開発し、これら技術の集積により、炭素繊維製造プロセスの生産性を10倍に高めるとともに、CO<sub>2</sub>排出量を半減することが可能になると期待される(日経'16.1.14)。

東レの試算	
従来モデル	CFRPモデル
	車体重量の17%にCFRPを採用 ⇒ 車体重量30%軽量化
1,380kg	970kg
	CO <sub>2</sub> 排出量 / 炭素繊維1トン合成・焼成時 20t
	ライフサイクル 軽量化⇒燃費向上 CO <sub>2</sub> 削減効果 ▲50トン

・ターボチャージャー採用による自動車の省エネ(IHI)  
ターボチャージャーを利用することでエンジンにより多くの空気を送り込むことができ、より大きな爆発を行えるようになり、燃費は改善する。

註)\*1 車の製造に必要な原料採掘の段階から、製造、輸送、使用、廃棄に至るすべての段階(ライフサイクル)において環境負荷を定量的に把握する手法。

註)\*2 PAN(ポリアクリロニトリル)炭素繊維が炭素化時に溶融しないよう200-300℃の空气中で数時間加熱する処理のこと。

## 2.自然環境を損ねる化石燃料や電気(火力発電)の消費抑制

### 2-1都市型ZEH(ネットゼロエネルギーハウス \*3)

日本のエネルギー消費量は、面積では僅か5%の主要都市部に人口の49%が密集し、国内の電力の48%が都市部に集中している。

・都市型ZEHへの取り組み(大成建設)  
技術センター内に実証棟を建設、1年間運用した結果、建物全体で初めて「年間エネルギー収支ゼロ」を達成した。

・屋根に塗装で夏期の太陽光を反射して建物内の温度上昇を防ぐ(関西ペイント)

室内の温度上昇が抑えられれば、エアコンや扇風機を使う必要もかなり減る。電気製品の使用量が減れば発電量も減らせるので、CO<sub>2</sub>の排出量削減にもつながる。

・日当たりが悪い室内を2倍明るくする「DNP採光フィルム(大日本印刷)」

窓から入る太陽光を天井などに効果的に反射、拡散させて部屋全体を明るくする。日当たりの悪い北側の窓に、本フィルムを使用した場合、使用前と比べて室内の明るさが2倍に向上し、照明エネルギー(電気代)を13%削減できた。

註)\*3 消費エネルギーを大幅に削減すると同時に、太陽光発電等の再生可能エネルギーを取り入れて、年間消費の収支をゼロとする建物のこと。

	屋根の表面	室温	室温設定	冷房稼働
一般塗料	71.7℃	37.8℃	28℃	強
太陽光反射塗料	56.8℃	34.8℃		弱

### 2-2ビルまるごと既設・新設を問わずビル設備を一元管理(三菱電機)

・ビルの換気・照明・マルチエアコン・ビル用太陽光発電を一元管理によって最適な条件を維持して省エネを図る。

2-3環境とエネルギーの未来を拓く～水素社会(トヨタ自動車、本田技研、岩谷産業、東京都等)

世界の水素インフラの市場規模は、2050年に約160兆円になる(日経'13.10)。本ゾーンでは、燃料電池自動車・フォークリフト、水素供給インフラの実物展示と、水素エネルギー、燃料電池の仕組みを解説した「水素社会教室」で、水素社会に向けた取り組みをわかりやすく紹介。

《水素活用の五つの意義》

- i エネルギーセキュリティ(エネルギー安全保障)に貢献
- ii 燃料電池利用により、省エネ、CO<sub>2</sub>削減に寄与し、地球温暖化対策として有効
- iii 燃料電池利用により、系統電力の需給を緩和しピークカットに貢献
- iv 燃料電池自動車や定置型燃料電池が、地震などの有事の際に緊急のエネルギー供給源となり、燃料電池の普及は防災機能を向上させることにつながる
- vi 水素利用技術に関してわが国は世界をリードしており、水素活用が進めば、日本経済全体の活性化と雇用拡大に貢献できる点である。(次のページへ)

### 3.太陽熱・太陽光や風力などの自然エネルギーの利用促進

セミナー「地域と共生する地熱発電～最新動向と今後の課題」地熱情報研究所（九大 江原名誉教授）  
わが国の地熱発電資源量は世界3位、地熱蒸気タービン供給量は世界1位と恵まれていたが、3.11以前は、開発は限定的であった。

3.11以後、FIT(\*4)の施行、政府支援の充実もあり、開発が活発化し、中・小規模の発電所の新設が続き、大規模発電所も数年後以降から運転開始の状況になっている。

註)\*4 固定価格買取制度

2008年	地熱資源量 (万kW)	地熱発電設備容量 (万kW)
アメリカ	3,000	309
インドネシア	2,779	119
日本	2,347	52
ケニア	700	16
フィリピン	600	190
メキシコ	600	95

12,635MW	発電設備容量%
東芝	22
三菱重工	22
富士電機	20
Ormat(Israel)	13
Ansaldo/Tosi(Italy)	10
その他	13

### 4. 自然災害対策(富士通)

4-1 気象情報伝送処理システム/アデス、地域気象観測システム/アメダス

アメダスから従来の10分⇒1分毎にデータを収集、またアデスのシステム基盤を強化し、ゲリラ豪雨情報など人々が知りたい情報を精度よく伝えること可能にした。

4-2 洪水予測シミュレーション: 河川流域に降る雨量から、増水量をいち早く見積もる事ができる最適化技術を開発。

4-3 下水道氾濫の兆候を検知する技術: 集中豪雨などで、街が浸水しないために、下水道の氾濫の兆候をセンサーでいち早くとらえるシステムを開発。（渡部 敏郎）

### 西府 崖線

## 野鳥観察会に参加して

日時 2月6日(土) 9:45～11:45の2時間  
天気 曇りのち薄陽  
コース (西府崖線)市川緑道・あずまや→わき水→大山道→ハケ上→わき水階段上→御嶽塚古墳→五小→ハケ下→カッパ池→法輪寺→あずまや  
案内人 田中香代子  
参加者 五十嵐 葛西 刈屋 倉町 小西 進藤 竹内 田中 渡辺 計9人(会員8人 一般参加者1人)

昨年に引き続き2回目の野鳥観察会で、当初は1月30日に実施予定だったが、悪天候のため2月6日に延期した。

私にとっては初めての野鳥観察会だった。あずまやを出発して間もなく、ウグイスの鳴き声が聞こえた。早速、案内人の田中さんからウグイスの「チャッ、チャッ」という鳴き声について、面白い話を聞いた。

これは地鳴きといって、囀り(サエズリ)ではなく警戒や連絡など様々な意味があるようだ。2月中頃には、「ホーホーキョ」「ホーホーケッ」という囀りの発生練習と思われる声が聞こえるそうだ。春告鳥(ハルツゲドリ)といわれるウグイスの囀りは、人々をとっても魅了するが、発声練習のようなものをへてあの「ホーホーケッ」という美しい声を発するのである。

大山道まではヒヨドリ、ムクドリなどが姿を現してくれたが、

少し寒い日だったのでいつもよりは少なかったようだ。大山道の手前でアオジらしい野鳥を2羽見かけた。半信半疑だったが、飛び立つとき腹のあたりが黄色かったの



プロミナをのぞき込む参加者

でアオジと判明。

やがてハケ上のやや広い空き地に移動。そこではいろいろな野鳥が飛び交っていた。田中さんが担いできたプロミナ(スコープとも。望遠レンズのついた照準器)を三脚で固定し、50m以上先のハケ沿いの道にズームイン。参加者が順番にのぞき込むと、アオジとキジバトが道の草をついばんでいるのがくっきりと観えた(写真④⑤)。

ハケ上階段のあたりでは、木陰でキジバトがじっと我々を凝視し、逆に観察されているような不思議な気分となった。



法輪寺前の梅の木で羽を休めるヒヨドリ

西府文化センター横の御嶽塚古墳ではあまり野鳥は現れなかったが、カッパ池を通り過ぎ、法輪寺前の梅の木にはヒヨドリがしばらく止まっていた(写真⑥)。のんびり、日向ぼっこでもしてるのだろうか。その頃には少し薄陽がさしていた。

今までハケの野鳥を無意識に見てきたが、意識して観ると、姿・鳴き声・習性などに大変興味をそそられた。

「見る(=眺める)」と「観る」の違いを痛感。ハケは、府中市の自然遺産といってよい。（葛西 利武）

キジバト、コゲラ、オナガ、ハシブトカラス、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、メジロ、ムクドリ、シロハラ、シメ、スズメ、ジョウビタキ、アオジ 14種(当日確認した野鳥)

# 福島にみる「民を殺す国・日本」

『民を殺す国・日本—足尾鉍毒事件からフクシマへ』(大庭 健著、筑摩書房)という本がある。昨年8月に発刊された(㊤)。

本書は、フクシマも足尾鉍毒事件も「この国を規定し続ける『構造的な無責任』体制＝国家教」が生んだと位置づけ、この体制をいかに克服するかを考察したものである。



これまで私は「棄民」という言葉を使ってきた。国や福島県は市民、町民を見捨てていることを、とりわけ「帰還政策」——避難指示区域を早期に解除し、民を帰還させ、東電の賠償をできるだけ早く終わらせる政策——を批判してきたつもりである。しかし、昨年9月5日に町内全域の避難指示を解除し、帰還宣言を行った檜葉町の帰還者は1月末現在でもわずかに6%に過ぎない。

ただ、たしかに大津波被災地全体をみれば、「棄民」より「民を殺す」という方が正しいと思わずにはいられない。それは、災害関連死の多さである。復興庁は半年ごとに東日本大震災における震災関連死の死者数を公表している。

最新の状況は昨年12月25日に公表したもので、その約3か月前の9月30日現在のものである。

集計の結果は、1都9県で合計3,407人。前回(2015年3月10日、震災4年後)以降の約半年間に亡くなられた方は76人となっている。県別にみると福島県が圧倒的に多く1,979人と半数を超える。福島第一原発事故の影響が大きいことは明白である。また65歳以上の高齢者は3,018人と、全体の88.6%と9割近い。大震災後の避難生活がいかに高齢者の健康を害しているかを物語っている。

詳しくは、下記資料をみていただきたい。

都道府県	合計	前回との差	年齢別		
			20歳以下	21歳以上 65歳以下	65歳以上
岩手県	455	3	1	59	395
宮城県	918	8	2	117	799
山形県	2	0	0	1	1
福島県	1,979	65	1	196	1,782
茨城県	41	0	2	6	33
埼玉県	1	0	0	1	0
千葉県	4	0	0	1	3
東京都	1	0	1	0	0
神奈川県	3	0	0	1	2
長野県	3	0	0	0	3
合計	3,407	76	76	382	3,018

\* 長野県の死者は、大震災翌日(3月12日)の長野県北部地震の関連死

私は昨年11月11日に大熊町を、そして12月15日には檜葉町を訪れた。また今年1月には、いわき市泉玉露にある富岡町の仮設住宅を訪れた。また、2月にも、いわき市の仮設で昨年11月の大熊町町議会議員選挙で2位当選を果たした木幡ますみさんと、今後の大熊町のあり方、支援の仕方等について語り合ってきた。

私が福島県の被災地や仮設住宅を訪問するのは、新潟から上京以来50年、ひたすら東京電力の電力に依存してきたからであり、電力を供給してきた双葉町や大熊町、富岡町などの人々との交流の中から、自らの来し方を振り返り、残り少ない人生をどう生きるか考えたいからである。

昨年、檜葉町を訪れたのは、上重岡地区にお母さんが一人で住んでおられた佐藤隆さんに同行したものであった。屋根は相当傷んで、雨漏りがひどい状態。室内は泥棒に3回くらい入られたとかで、荒れ放題であった(写真㊦)。

震災当日は、妹さんが介護のために同居されていたので無事だった由。「もし、一人暮らしだったら危なかった」と佐藤さんはいわれる。高齢者のみ世帯や一人世帯の避難者は、今どこでどのように生活しているのか、大いに疑問に思った檜葉町訪問であった。(伊藤 久雄)

檜葉町の佐藤さん宅 2015.12.15撮影

